

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2013年8月5日～8月11日】

[当地報道をもとに作成]

平成25年8月13日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼ロシア正教会がアブハジアの独立正教会の承認についての請願を拒否(6日)

・アブハジア「戦略研究センター」代表らがロシア正教会総主教に宛てた公開書簡で「アブハジア独立正教会の再建についての住民の願いに対する支持」を求めたのに対し、ロシア正教会は教会以外からの請願は受理できないとして検討を拒否。

#### 【南オセチア】

##### ▼露政府が南オセチアに露連邦の国際電話番号を付与(8日)

・露政府ウェブサイトによれば、「国際電気通信連合が独立の番号を割り当てるまでの一時的な措置」として、南オセチアはロシアの国際電話番号を利用する。

・アブハジアは2010年以降ロシアの国際電話番号を利用している。

##### ▼クヴェシ付近での発砲事件(10日)

・EUMMによれば、午前11時頃、行政境界線付近のグルジア警察駐在所にグルジア警察の車両が現れた際、南オセチア側から発砲があった。EUMM職員が現地目で目撃。EUMMは「全ての当事者に最大限の自制と挑発の自重を求める」との声明を発表。

・南オセチア側は「車両が南オセチア領内に侵入したために空に向けて警告射撃を行なった」と主張。

### 2. 外 政

##### ▼米紙「The Wall Street Journal」がイヴァニシヴィリ首相の書簡を掲載(5日)

・国内で進めている諸改革を列挙し、前政権の高官の逮捕は「国際的な監視の下で適切な手続きに則っている」と説明。「バラ革命の理想と希望であった数百万人のグルジアの人々の願いを実現し続けるために、更に強い国際的支持が必要である」と結んでいる。

##### ▼メドヴェージェフ露首相の発言の反響(5日)

・4日に「Russia Today」で放送されたメドヴェージェフ露首相のインタビューを受け、トルキア二法務大臣は、ロシアがグルジアの領土を占領しているのは事実であるが、外交関係の復活に向けていかなる前提条件もあってはならず、直ちに交渉を始めなければならないと述べた。

・ノーランド駐グルジア米大使は、2008年8月の戦争で双方が過ちを犯したのは間違いないが、それは「不法な

占領を正当化するものではない」として、国際社会の関心はジュネーブ会合に向けられており、「現在の世界に新たなベルリンの壁がつくられてはならない」と述べた。

##### ▼TV「ルスタヴィ2」がメドヴェージェフ露首相のインタビューを放送(5日)

・2008年8月の戦争から5年が経ったことに因んで「ルスタヴィ2」が約40分間の単独インタビューを行なった。

・アブハジアと南オセチアの承認は当時の状況下で唯一の正しい決定であったと強調。「見直すつもりはない」。

・イヴァニシヴィリ首相について、「実際的な人物である」と評価。ロシアとの関係改善に向けたグルジアの現政権の努力は十分に認識していると、「我々は良い隣人関係を持たねばならない」と述べた。

・アブハジアと南オセチアの行政境界線のいわゆる「国境化」および国内避難民の問題はグルジアと両地域の「政府」が協議するべき問題であると主張。

・グルジアのNATO加盟について、「歓迎しない」「ロシアの利益に反するだけではなく、グルジアにとっても良くない」と述べた。

##### ▼TV「ルスタヴィ2」が2008年8月の戦争に関するサーカシヴィリ大統領のインタビューを放送(7日)

・グルジアにとっての唯一の正しい道は「ロシアに頭を垂れることなく、素早く発展することである」。

・2008年8月にはグルジアは「戦争に対する準備ができていなかった」。最強の部隊はイラクにおり、イスラエルから購入した防空システムはグルジアに届く前であった。米国からスティンガーミサイルを購入する交渉は最終段階にあり、「ロシアはその状況をよく分かっていた」。

・2008年2月にモスクワでプーチン露大統領と会談した際、アブハジアと南オセチアの問題の解決の代わりに、NATO加盟を放棄し、米国との関係を縮小することを提案したが、プーチン露大統領は即座に拒否した。更に、2008年6月には、アブハジアを東西に分割する案をロシアに提案した。戦争を回避するために可能なあらゆる妥協案を探っていた。

・ライス米務長官(当時)はロシアが戦争を起こすことはないと考えていた。グルジア政府に対してロシアとの戦争の現実の脅威を最初に警告したのはシュタインマイヤー独外務大臣(当時)であった。

・人道支援物資を積んだ戦艦を米軍がグルジアに送ったことがロシアに対する重要なシグナルになった。「結局、ロシアを止めたのは外交努力と米海軍第6艦隊だった」「ロシアはトビリシを占領し、グルジアを完全に破壊するつもりであった」。

## ▼2008年8月の戦争から5年が経ったことに因んだ グルジア外務省の声明(7日)

・ロシアに対して2008年8月12日の停戦合意の履行を求めるとともに、ロシアが国際法の基本的な原則に反してグルジアの領土の20%を占領し続け、避難民の帰還を阻んでおり、更にアブハジアおよび南オセチアにおいて鉄条網や盛土の建設を活発化させていると非難。

・ロシアの「執拗な破壊的な政策」にもかかわらず、グルジアはロシアとの関係の正常化を試みており、「国際法の原則に基づいた交渉による紛争の平和的な解決」を目指すことを強調。

・パートナー諸国に対する感謝を表明。欧州および欧州・大西洋への統合を目標とすることを再確認。

## ▼グルジア、アブハジア、南オセチアに関するロシア国内の世論調査(7日)

・露の調査会社レヴァダ・センターが7月にロシア全国の1601人を対象に行なった世論調査の結果を発表。

・グルジアに対する態度について、回答者の48%が「非常に肯定的」「概ね肯定的」と答えた(16%であった2008年9月以降、毎年増え続けている)。「非常に否定的」「概ね否定的」と答えた回答者は40%(74%であった2008年9月以降、毎年減り続けている)。

・「アブハジアおよび南オセチアの承認がロシアにとって利益になった」と答えた回答者は20%(2008年9月40%、2012年7月28%)。「承認がロシアにとって不利益をなした」と答えた回答者は11%。49%は「承認が利益にも不利益にもならなかった」と答えた。

・アブハジアについて、回答者の9%が「グルジアの一部であるべきだ」、30%が「ロシアの一部であるべきだ」、42%が「独立国であるべきだ」と答えた。南オセチアに関しても結果はほぼ同じ。

## ▼イヴァニシヴィリ首相がアブハジア、南オセチアとの直接の対話を示唆(8日)

・2008年8月の戦争から5年が経過したことに因み、イヴァニシヴィリ首相がゴリにて新たに入隊した760人の兵士を前に演説。

・演説のなかで「我々はアブハズ人やオセット人の兄弟たちと直接に対話する用意がある」「ロシアとの外交関係の復活は、グルジアの領土一体性の回復において前進が得られた後に、検討の対象になる」「グルジアの親西歐的方針、EUおよびNATOへの統合は、代わりうるものがない我々の戦略的な選択である」などと発言。

・アブハジア、南オセチアとの直接対話に関する首相の発言について、アラサニア国防大臣は「人々間の関係の復活、社会の間の架け橋の修復および開かれた外交は、将来の政治的な合意の礎となるものであり、ロシアも他の誰もそれを邪魔することはできない」とコメント。

## ▼アルメニア警察の代表団がグルジアを訪問(9日-11日)

・9日、ガリバシヴィリ内務大臣がガスパリヤン・アルメニア警察長と両国の警察の協力について会談。

## ▼米海軍のミサイル駆逐艦「バルクリー」がバトゥミに入港(10日)

・11日、艦上で催されたレセプションにサーカシヴィリ大統領、イヴァニシヴィリ首相、ウスパシヴィリ国会議長、パンジキゼ外務大臣、アラサニア国防大臣、ガリバシヴィリ内務大臣らが出席。艦上で「サ」大統領と「イ」首相が言葉を交わし、握手をした。

・「サ」大統領は演説で「イ」首相に向けて「我々には互いに対立している時間はない。グルジアの領土に鉄条網が築かれないように手を取り合わねばならない」「2008年の戦争に関してグルジアにはいかなる責任もない」「あなたが敵と協力しないことを望む」と述べた。

・駆逐艦はグルジア国境警備隊との共同訓練などを実施して、13日に出港。

## 3. 内 政

### ▼1月～7月の犯罪率および犯罪検挙率(6日)

・内務省の発表によれば、2013年1月～7月の犯罪件数は16,590件(前年同期比4,126件減)。犯罪検挙率は53.3%(同30.2%増)。

・政府による大規模な恩赦の後、野党などから治安の悪化が強く疑われていた。

### ▼国会が追加の政党交付金に係る修正法案を承認(6日)

・これまで交付金の対象でなかった「労働党」「自由グルジア」「国民民主党」「カルトゥリ・ダシ」を含む、国会内に議員のいない7つの党に15万ラリを支給。また、国会内に会派を持つ政党に追加で30万ラリを支給。

・法案をまとめたクツナシヴィリ議員は「法案は公正さに欠けるが、10月の大統領選挙に向けて、小政党を含む各党により多くの資金を与えるための一時的措置である」と説明し、大統領選後の更なる改正を約束。

### ▼元大相撲力士「黒海」ことレヴァン・ツァグリア氏が観光名誉大使に(7日)

・グルジア政府観光局は、2012年まで大相撲で「黒海」として活躍していたレヴァン・ツァグリア氏を「観光名誉大使」に任命。観光局はカタール航空と協力し、日本でのグルジアのプロモーションを計画している。「ツァ」氏は「大相撲での経験を活かして、日本でグルジアのイメージの向上に努めたい」と話した。

### ▼ジグシア元議員が発砲事件で逮捕(9日)

・8日、パーティーの席で酒に酔って口論になったクヴァライア・ズグディディ副市長に対して発砲したとされる。「ク」副市長に怪我はない。

・11日、ズグディディ市裁判所は2,000ラリの保釈金による保釈を決定。

## 4. 経 済

### ▼7月の入国者数が過去最高を記録(1日)

- ・グルジア内務省分析局が発表。7月の入国者数は609,189人で、1カ月の入国者数として過去最高。前月比24%増、前年同月比15.6%増。
- ・年間入国者数は2006年以降、2008年を除き、増え続けており、2012年には50.2%増。

### ▼1月～7月のアルコール飲料輸出量(7日)

- ・国家ワイン局によれば、1月～7月間のアルコール飲料の輸出量は12,094,075リットル。前年同期比で43%増。
- ・グルジアワインは23カ国に輸出されており、輸出量の多い順にウクライナ(全体の38%)、ロシア、カザフスタン、ベラルーシ、ポーランド、中国、ラトヴィア。

### ▼トビリシにサムスの公式ショップが開店(9日)

- ・サムスン電子社長がトビリシを訪れ、開店式に出席。

- ・トビリシ国立大学に最新のIT機器を備えた「Smart School」を開設。サムスは同様の設備を昨年9月にグルジア公共政策大学(GIPA)にも設置している。

### ▼グルジア国立銀行の外貨準備高(10日)

- ・7月末の時点で国立銀行の外貨準備高は30億4900万ドル。6月末より6720万ドル減。

## 4. その他

### ▼グルジア西部で大雨・暴風による被害

- ・4日夜、グリア地方で暴風雨。コブレティで天然ガスのパイプラインが損傷。
- ・9日、大雨によりホニで約500軒の家屋が浸水